

都市戦略

2



進化し続ける都市インフラ

「世界一利便性の高い都市」を目指す、東京の交通インフラ。進化していくのは、道路、港湾、航空、鉄道だけではありません。道路上のオープンカフェや、広いエリアで実施されるシェアサイクルなど、東京の魅力を高める都市づくりも始まります。それでは、東京の未来を支えるインフラをご説明します。



政 策 指 針

05

陸・海・空の広域的な 交通・物流ネットワークの形成

三環状道路、東京港、そして羽田空港。

これら東京を支える都市インフラが一層充実し、

人やモノの流れが大きく変わります。

そして、2020年大会に向けてスムーズな移動を実現します。

東京の未来

▶ 三環状道路により、生まれ変わる東京

東京が抱える最大の弱点、それは渋滞です。そこで、三環状道路の整備を推進し、首都圏をはじめ、日本各地への人やモノの流れを加速させていきます。また、道路ネットワークを強化することで、災害時においても、交通、物流が確保でき、都市の安全性が高まります。

▶ 新宿から羽田空港

2014年度
40分 ▶ 20分  1/2

▶ 関越道から東名高速

2020
60分 ▶ 12分  1/5

▶ オリンピック・パラリンピックを支えるスムーズな移動

競技会場が集中する臨海部への交通インフラを充実させることで、選手や大会関係者、そして東京を訪れる人々の快適な移動を実現します。



- 供用中
- 2020年度までに完成・概成
- 2020年度以降に完成
- 調査中・構想

未開通区間のIC・JCTは仮称
平成27年3月現在





▶ 海と空のネットワークで、世界中から人・モノを呼び込むハブへ

海では、東京港の再構築をはじめ、世界最大級のクルーズ客船に対応できるふ頭の整備を進めます。空では、都心に近く24時間の利用が可能な羽田空港の機能強化等に取り組みます。陸・海・空のネットワークをより強固にすることで、人やモノの流れを更に活発にしていきます。

▶ 羽田空港の年間発着枠

2014
44.7万回 ▶ 2020
約49万回



▶ 東京港のコンテナ取扱個数

2025年度
610万TEU^{※1}



※1 Twenty-foot Equivalent Unitの略で、コンテナの個数を数える単位。20フィートコンテナ(長さ6m)1個を1TEUという。

政 策 指 針

06

誰もが円滑かつ快適に利用できる 総合的な交通体系の構築

「世界一の都市・東京」にふさわしい、「世界一の交通体系」。

そのためには、東京に暮らす人、働く人、訪れる人、

誰もが安心して快適に利用できる交通が求められています。

より便利で、よりスムーズな交通体系を実現し、

東京の活力を高めていきます。



東京の未来

▶ 国際都市にふさわしい交通体系を目指して

2020年大会を見据え、わかりやすく安全な公共交通は欠かせません。そこで、複雑な乗換を利用者の目線で改善し、スムーズに安心して移動ができる交通システムを目指します。また、バリアフリー化や案内サインの多言語対応、通信環境も充実することで、あらゆる人にやさしい交通体系を実現します。



① 東京駅八重洲地区

都内はもちろん、日本各地に向かうバスが集まる東京駅八重洲地区。これらのバス乗り場を集約した大規模なバスターミナルを整備し、東京駅ともスムーズにつながる、一大ターミナルになります。



② 虎ノ門地区

都市開発が進むこのエリアは、環状2号線やバスターミナル、新駅など、新しい交通インフラを整備することで、2020年大会会場への玄関口となります。



③ 浜松町・竹芝地区

浜松町駅周辺では大規模な再開発が進んでいます。これらと併せて、鉄道やバス、舟運、空港など、あらゆる交通機関へのアクセスを高めた乗換拠点として、人の流れをスムーズにします。

▶ 全ての人が安心して安全に歩ける公共空間へ

高齢者や子育て世代、障害者を含む、あらゆる人が暮らしやすい都市づくりに取り組みます。電線の地中化や歩道のバリアフリー化を進めることで、ゆとりある道路空間をつくりだし、オープンカフェや憩いの場も創出。生活の豊かさや快適さを実感できる成熟都市が生み出されます。

▶ 電線の地中化・歩道のバリアフリー化



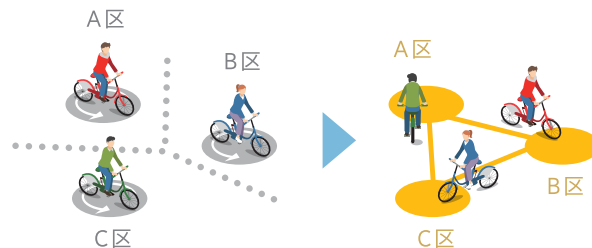
▶ どこへ行くにも快適に移動できる自転車の活用

通勤や買い物だけでなく、ビジネスや観光などでも活躍する自転車。自転車推奨ルートの整備や区を越えたシェアサイクルを充実させることで、2020年大会時には移動や観光の利便性や快適性が高まります。

▶ 自転車走行空間

2020

264 km



▶ 東京の魅力を高めるウォーターフロント

2020年大会だけでなく、その後の観光にも利用できる船の交通ネットワーク。多くの観光客が利用する羽田空港と都心や臨海部への航路を拡充していきます。船着場から最寄り駅への案内サインの充実やバリアフリー化を進めることで、より便利で快適な水上交通ネットワークが確立します。





都市戦略 2 を知るキーワード

▶ 環状2号線

政策指針 05

臨海部と都心部を結ぶ幹線道路として整備が進められており、2020年の全線開通を予定しています。2020年大会時には、選手村と競技会場等を結ぶ大動脈となる道路です。

▶ 東京港の再構築

政策指針 05

大型コンテナ船に対応する新たなふ頭の整備や既存ふ頭の再編など、東京港は大幅に機能がアップします。また、国道357号や臨港道路南北線などの臨海部の道路ネットワークを充実させて、港湾物流を効率化させます。

▶ 三環状道路

政策指針 05

1963年に計画された、中央環状線、外環道、圏央道の3つの環状道路。中央環状線は2015年3月に全線開通し、2020年には圏央道の整備率が約9割にまで向上。さらに、外環道では「関越道～東名高速」間の2020年早期開通を目指すなど、整備が進められています。

▶ 首都圏の空港機能の強化

政策指針 05

外国人旅行者の増加や国家戦略特区の指定など、首都圏の空港利用者は大きな増加が見込まれています。2020年代前半には空港容量が限界に達すると予測されるため、2020年大会後も見据え、羽田空港の発着枠拡大や空港アクセスの充実等に取り組めます。

▶ 交通体系と都市づくりの連携

政策指針 06

虎ノ門地区など、ビジネスや商業、文化、観光などの都市機能が集積するエリアでは、都市開発と併せて鉄道やバスとのシームレスな乗継や空港アクセスの強化、バリアフリーの充実などに取り組みます。これにより、質の高い交通サービスが提供される交通結節点を形成していきます。

▶ 東京シャンゼリゼプロジェクト

政策指針 06

新虎通りなどの幅員の広い歩道にオープンカフェを設置するなど、新たなにぎわいを生み出し、まちを活性化させるプロジェクトです。地域のにぎわいや魅力を高めることで、生活の豊かさや快適さを実感できるまちにしていきます。

▶ 自転車推奨ルート

政策指針 06

2020年大会競技会場や観光地周辺などの都内7地区において、自転車が安全で走行しやすいルートの整備を進めます。シェアサイクルなどと合わせて、2020年大会時の移動や観光での自転車の活用を目指します。